

経営管理研究所機関誌「紀要」20周年記念号の刊行を迎えて

経営管理研究所長

荒井 耕一郎

経営管理研究所は、1990年に商学部経営学科から分離独立し設置された経営学部の専属研究機関として、経営管理（マネジメント）についての総合的研究を行うことを目的に1994年度に設置され、今年度（2013年度）で満20周年を迎えました。この間経営管理研究所は、歴代の所長を中心に所員である経営学部専任教員一同が一致団結して、本学の教育理念である「理論と実践」のもと、わが国の企業組織や行政組織などの非営利組織の状況、わが国の企業の海外進出および現地での経営管理の状況、東海地域の経営管理の特徴などについて、幅広い研究を重ねてきました。ここに経営管理研究所機関誌「紀要」20周年の節目に当たる記念号を刊行できることは誠に喜ばしく、歴代の所長や所員の方々を含めこれまで経営管理研究所を支えて下さった多くの方々に、心から感謝を申し上げる次第です。

経営管理研究所が設置された1994年からの現在までの20年の間に、わが国企業を取り巻く環境は大きく変化致しました。1990年代以降、旧ソ連・東欧諸国の市場経済参入、東アジア諸国・地域、中国、インド、ブラジルなどの新興勢力の市場経済参入、情報技術の急速な進歩などにより、経済のグローバル化が一気に加速し、わが国企業は一様に国際的な競争の激化に直面することになりました。この結果、わが国企業は競争力の維持強化のため積極的に東南アジア諸国や中国などに進出し、その活動はそれまでの国内中心だった形態から大きく変貌しています。最近は大企業のみならず中小企業までもが、少子高齢化に伴う人口減少、市場縮小の影響をまともに受ける日本市場にこだわることなく、積極的に他国に進出して、進出した国々とWin-Winの関係を築こうとしています。

経営学部は平成26年度から、現代企業学科を経営学科に統合した上で、新たに建設された名城新キャンパスにその活動を移します。経営学部では過去数年来、上記のようなわが国企業の変貌に応え且つグローバルに活躍できるような人材の育成・輩出を目指した新しい時代にふさわしいカリキュラムを専任教員が一丸となって模索してまいりましたが、名城新キャンパスのカリキュラムには、この模索の結果を踏まえた新しいプログラムが組み込まれています。経営管理研究所も所員一同、わが国企業を取り巻く経営環境の変化に合わせた新たな研究成果を世に問うことにより、経営学部のみならず本学の地盤である東海地域の発展のため一層尽力致してまいりますので、これまで以上のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。